

再評価個表

事業名	農村地域防災減災事業 (ため池整備事業)	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	いぬづか 犬塚地区	事業箇所	いまぼりしたまがわちやわた べつしよ 今治市玉川町八幡・別所
事業主旨	本事業は、今治市旧玉川町の北部において、老朽化等により決壊の危険性が高まっているため池を改修し、農業用水の安定供給を維持するとともに、下流の農地、人家、公共施設などの安全を確保することにより、地域農業の振興と農村地域の安全性向上を図るもの。		
再評価の実施理由	「事業採択後 10 年が経過して継続中」の補助事業		

1. 地域の概要

本地区は、旧玉川町の北部に位置し、二級河川蒼社川右岸に広がる平野部の水田地帯に住宅地が点在する農村地域である。

地域の農業は、平野部の水田では水稻中心の営農であり、旧今治市側の平野部では麦作も行われている。また、丘陵地域においては、果樹や畑作が多い。

気候は、瀬戸内式気候に属しており年間を通して降雨量が少なく、地区内の主水源はため池である。

本地域のため池は築造後約 200 年が経過しており、堤体からの漏水や法面浸食、洪水吐及び取水機能の低下など、老朽化が顕著なことに加え、下流域に多くの人家や農業用施設、市道等があることから、決壊時に甚大な被害が発生することが懸念されており、地域の課題となっている。

2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成 28 年度	完成予定	令和 9 年度（見込み）
用地着手	—	工事着手	平成 29 年度
全体事業費	1,312 百万円（うち用地費：0 円）		
(1) 事業概要	受益面積 41.6 ha ため池 2 か所 ・ゴマジリ池 堤高 3.8m、堤長 90m、貯水量 2.8 千 m ³ いぬづかいけ ・犬塚池 堤高 16.6m、堤長 207m、貯水量 680.3 千 m ³		
(2) 事業経緯	平成 28 年度 事業採択 平成 28 年度 ゴマジリ池 調査測量設計着手 平成 29 年度 ゴマジリ池 工事着手、犬塚池 調査測量設計着手 平成 30 年度 ゴマジリ池 工事完了 令和 2 年度 犬塚池 工事着手		

3. 事業の必要性及び整備効果等

(1) 事業の必要性（整備効果）

本事業は、今治市旧玉川町北部の別所集落と八幡集落において、老朽化したため池を整備することで、下流受益地の農業用水を安定的に確保するとともに、決壊被害を未然に防止することを目的としている。

本地区のため池は、築造後約 200 年が経過しており、堤体からの漏水や法面浸食による断面不足、洪水吐の断面不足や底樋内部のクラックなどにより、決壊の危険性が高まっている。

近い将来発生が予想されている南海トラフ巨大地震等の自然災害により、これらのため池が決壊すると、ため池を水源とする受益地への営農被害だけでなく、下流の人家や農地等に多大な被害を与えることから、農業用水の安定的な確保と下流域の安全・安心のため、早急な改修を要している。

また、これらのため池は、決壊時の浸水想定区域が重なり、下流域への甚大な被害が懸念されるため、今後の安全確保の観点からも本地域のため池を総合的に整備する必要がある。

(2) 事業の整備効果

【農業用水の安定確保】

ため池堤体の改修により、取水施設を整備し効率的に用水を利用できることから農業用水量が安定的に確保される。

【災害の防止】

ため池堤体の強化、洪水吐の整備により、地震・豪雨による決壊被害の未然防止が図られる。

(3) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

平成 30 年 7 月の西日本豪雨では全国で多くのため池が決壊し、本県でも多くのため池が被災したことや、令和 6 年の能登半島地震や豊後水道地震の影響もあり、南海トラフ巨大地震による甚大な被害の懸念から、ため池の安全性について住民の関心が高まっている。

4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

(うち用地費) R6末投資事業費	(一百万円) [進捗率：－](事業費換算) 1,029百万円 [進捗率：78.5%](事業費換算)
(1) 事業の進捗状況	当該事業は、平成28年度に事業着手し、令和6年度までに、ため池2箇所のうち1箇所の整備を終え、進捗率は事業費換算で78.5%となっている。 犬塚池については、平成29年度に調査・測量・設計に着手し、工事用道路と仮締切堤の工事の着手が令和2年度、令和9年度の完了見込みとなっている。
(2) これまでの整備効果	ゴマジリ池は、改修により、取水施設の機能を最大限に発揮することにより、受益地に安定的な農業用水を供給できるようになった。また、ため池の決壊時に想定される被害を未然に防止し、下流域の安全性が向上した。
(3) 今後の事業進捗の見込み	犬塚池については、今後工事に支障となる要因はないため、令和9年度に事業完了する見込みである。

5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

(1) 費用便益比
C：総費用＝ 1,452百万円 ・事業費 1,446百万円 ・その他 6百万円 ※その他は供用開始後40年間に必要な再整備費-40年後の資産価額
B：総便益＝ 8,031百万円 ・災害防止便益 8,047百万円 ・維持管理費節減便益 △16百万円
$B/C = 8,031 / 1,452 = 5.53$

6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

- ・ため池の法面保護工において、張ブロックから効率的な施工が可能な工法（ブロックマット・布製型枠工）に変更することで、施工にかかる費用を縮減した。

7. そ の 他

- ・愛媛県総合計画～未来につなぐ えひめチャレンジプラン～において、「施策 29：大規模災害に備えたまちづくり」（6：農山漁村地域の防災対策）に位置付けられている。
- ・えひめ農林水産業振興プラン 2021 において、第 2 章農業編（3）地域でつながるえひめ農業を目指します「快適で安全・安心な農村の暮らしを実現します」の具体的な推進事項に「農村の防災・減災対策を推進します」として、位置付けられている。

8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。

本事業は、農業用水を安定的に確保するとともに、決壊被害を未然に防止できるよう早急に更新整備を進める必要があり、令和 9 年度には事業完了する見込みである。